

讀賣 香川スポーツ

2012年
4月13日(第593号)
(毎週金曜日、70,000部発行)

週刊

発行所 大阪読売サービス(株)
編集センター 06・6364・9454 FAX 06・6364・9092
〒530・0055 大阪市北区野崎町5-9 読売新聞大阪本社内
高松編集室 087・833・1791 FAX 087・833・1793
〒760・0017 高松市番町1-10-21 読売新聞高松総局内



日本拳法連盟
香川拳法クラブ
(高松市)

防具を着けて実戦的な技を磨く日本拳法連盟の「香川拳法クラブ」(高松市)には、小学生から50歳代までの男女約30人が集まり、迫力あふれる突きや蹴りを繰り出す。四国総合選手権大会(5月6日)を控え、練習にも熱がこもる。



蹴り、突き...。繰り出す技は本格的だ



闘志満々 四国Vに挑む

日本拳法は1932年、澤山宗海さんが始めた。防具を着装することで、実際に相手に突きや蹴りを入れができるのが特色。投げ技、受け身、かわし身などのあらゆる実戦練習ができ、警察の逮捕術や自衛隊の徒手格闘術にも採用されている。突き、蹴り、組み敷いての空突き・空蹴りが入ると一本。試合は二本先取で決まる。

同クラブ代表の佐藤博美さん(六段=63)は「高校時代に日本

拳法を見て、手数の多さ、速い動きに目を奪われ」、大学に入学して始めた。87年に道場を開き、長男・智之さん(四段=32)、次男正典さん(同=28)はクラブの選手兼指導者として活躍している。

練習は週3回。防具を着けない基本練習や形練習と防具を着装しての実戦練習などを行う。智之さんは「技術の習得、実戦、ダイエットなど選手の年齢や目的に合わせたメニューを考えて指導する」という。

昨年、2つの地方大会小学3年生の部で優勝した大野雄大君(高松市立川東小4年)が繰り出す技は迫力満点だ。「四国大会でも優勝を狙う。一本が決まるとき気持ちいい」。弟の光輝君(同3年)も

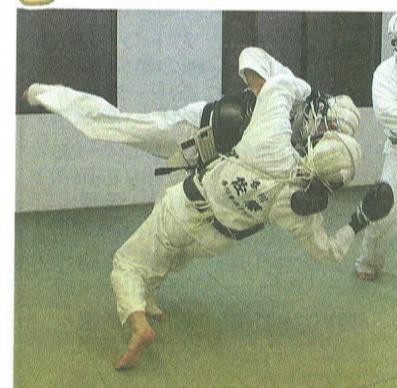
「蹴りをもっと強くして大会で優勝したい」と頑張る。

素早い連撃が持ち味の森田直人君(同5年)は「練習は厳しいけど、試合に勝つとうれしい。目標は黒帯」と力強い。

寺本嘉文さん(初段=48)は43歳の時、子どもたちの見本になろうと一緒に始めた。「8試合目で初めて勝ち、その後地方大会で3位に入賞して、やればできると実感した。今は有段者の試合で1勝することが目標」と話す。

「最年長選手で有名になっちゃった」と笑う女性拳士の山中智視さん(二段=51)は全国大会に2度出場した実力派。これまで運動経験はなかったが、格闘技観戦が好きで44歳で入門した。「試合で高校生に投げ技で負けたのが悔しくて」と始めた柔道も今は二段に上達した。

佐藤さんは「強くて優しい、文武両道の人を育てる、家族のような道場でありたい」と語り、智之さんは「日本拳法をもっと身近に



迫力満点の投げ技

感じてもらい、心身ともに修練する場所として活用してほしい」という。

問い合わせは佐藤さん 087-879-5310 (kkc-mail@biscuit.ocn.ne.jp)。HPは「香川拳法クラブ」<http://www5.ocn.ne.jp/~kkc-web>

応援歌

今春、大阪府の枚方桜丘小に転校した元同クラブの近森敬太君(4年)、勇佑君(1年)兄弟も四国大会に出場します。敬太君は「大阪でも日本拳法を続けています」。勇佑君は「四国大会でみんなに会えるのが楽しみ」と大会を心待ちにしています。



「明るく元気にならしく
モットーに頑張っています」

ヤマサ蒲鉾株式会社

確かな品質 確かなうまさ

かまぼこ工房 夢鮮館

〒671-2198 兵庫県姫路市夢前町置本327-16
営業時間: AM 9:00 ~ PM 5:00 定休日: 無休
入場無料・駐車場無料

検索してね!

ヤマサ蒲鉾 検索